

令和6年度第3回高砂市総合教育会議 会議録

令和6年11月28日（木）高砂市役所南庁舎2階会議室1において開会

出席委員

|     |    |    |
|-----|----|----|
| 市長  | 都倉 | 達殊 |
| 教育長 | 玉野 | 有彦 |
| 委員  | 吉田 | 美香 |
| 委員  | 山名 | 克典 |
| 委員  | 神尾 | 信作 |
| 委員  | 吉屋 | 章  |

出席事務局職員

|            |    |    |
|------------|----|----|
| 総務部長       | 荻野 | 章広 |
| 総務部総務室長    | 吉金 | 仙人 |
| 総務部総務室総務課長 | 十倉 | 正佳 |

|                        |     |    |
|------------------------|-----|----|
| 教育部長                   | 木田  | 匠  |
| 教育部教育推進室長              | 福本  | 典子 |
| 教育部学校教育室長              | 平山  | 健二 |
| 教育部学校教育室参事             | 矢野  | 仁之 |
| 教育部教育推進室教育総務課長         | 石原  | 里美 |
| 教育部学校教育室学校教育課長         | 福永  | 慎也 |
| 教育部学校教育室学校教育課青少年センター所長 | 長谷川 | 竜平 |

傍聴者

4名

本日の議事

- (1) 高砂市教育大綱について
- (2) 高砂市教育振興基本計画について
- (3) その他

○事務局

それでは、定刻になりましたので、これより令和6年度第3回高砂市総合教育会議を開会いたします。

まず初めに、市長から御挨拶をお願いいたします。

○都倉達殊市長

皆さん、こんにちは。令和6年度第3回の、3回目の高砂市総合教育会議の開催に当たり、委員の皆様方には御多忙の中お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

改めて委員の皆様方には平素から高砂市の教育行政、あるいは高砂市のこどもの健やかな成長に御尽力を賜っておりますことに感謝申し上げたいと思います。

私は次期高砂市教育振興基本計画策定に並行いたしまして、市長として教育大綱を考えるというふうに申し上げてまいりました。前回、第2回の総合教育会議におきまして、高砂市教育大綱の素案をお示しをし、教育委員の皆様方に数々の貴重な御意見を賜りました。今回それらの御意見を踏まえまして修正をさせていただきました教育大綱（案）をお示しをしておりますので、改めて皆様方から御意見を賜りたいというふうに考えております。

さて、本日の議題といたしまして二つ上げてございます。1点目は、先ほど申し上げました高砂市教育大綱について、それから2点目には、教育部におきまして、現在、策定作業中であります第4期の高砂市教育振興基本計画についてを前回に引き続き御議論いただきたいというふうに考えております。

皆様方には闊達な御意見、御議論をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

以上です。

○事務局

ありがとうございました。

本日は、全ての構成員の皆様には御出席いただいております。出席者の御紹介並びに事務局の出席者の紹介につきましては、出席者名簿をもって代えさせていただきます。

それでは、これから議事に入らせていただきます。

本日も前回に引き続き、「高砂市教育大綱について」、「高砂市教育振興基本計画について」を議題として上げさせていただきます。

高砂市総合教育会議運営要領第4条の規定により、市長が議事進行を行うこととなっておりますので、これからの進行は市長をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

それでは、次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思います。

今回の議事の進め方でございますが、議題1の「高砂市教育大綱について」、また議題2「高砂市教育振興基本計画について」を一括議題として取り扱いたいと思います。

教育大綱、教育振興基本計画のそれぞれについては、現時点での最新案として最終形に近いものとしてお示しをしておりますが、双方に密接に関連しておりますので、それぞれについて資料説明を行った後に、委員の皆様方に御意見を頂戴したいと思います。この取扱いでよろしいでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございます。

それでは、まず「高砂市教育大綱について」ですが、今回お示しをしております大綱

につきましては、前回お示しをした大綱に各委員の皆様方からいただきました御意見を踏まえて文言修正をしたものとなっております。併せて修正箇所についての新旧対照表をお示しをしておりますので、御確認をよろしくお願い申し上げます。事務局のほうで事前に教育委員の皆様方には確認をいただいていると聞いておりますが、まず改めて私のほうから簡単に修正部分につきまして説明をさせていただきます。その後に皆様方から御意見をいただければと思っております。

それでは、修正箇所について御説明をさせていただきます。

まず、挨拶文の追加といたしまして、社会構造の急速な変化を踏まえ、教育環境も大きく変化をしていく、そうした現状を踏まえながら、様々な教育課題に対応し、第5次高砂市総合計画に掲げる思いを高砂の教育においても新たな教育大綱として市民の皆様にお示しをして、地域や市民、行政、教育委員会とともに連携をし、これまで以上に高砂の教育の充実に取り組んでまいりたいというふうに思いを載せております。

次に、教育理念でございます。教育により力を入れていく教育のまち高砂をつくっていくという読み方、見せ方につきまして、委員の皆様方からも御意見をいただいております。そういった中で、括弧をつけまして「教育のまち高砂」というところを強調をさせていただきます。

次に、基本方針でございます。（１）こどもが主役の学びの中で質の高い教育を行うの部分でございます。（２）につきまして、優しさ、思いやり、忍耐力、好奇心といった数値化できない非認知能力についても、高砂の教育で育ててほしいという御意見がありましたので、文言を追加をさせていただきます。

次に、④番でございます。就学前教育という文言を基本計画の表現に合わせ、幼児教育という語句に改めております。

続きまして、（２）のニーズに合った教育環境を創るは、前回、文頭に「こども」の文字が入っておったんですけど、将来、学校の施設自身もこどものためだけのものではなくなるのではないかなという意味を踏まえまして、「こどもの」を取らせていただきました。

続いて、②番でございます。国籍、言語、性別、障がいの有無にかかわらずという文言につきましては、四つにこだわることなく、いろいろなことに対して人権問題を含んでいるという意味を踏まえまして、「複雑・多様化する人権課題に対し」という文言に修正をさせていただきます。

（３）番の「生涯にわたって学ぶ機会を創る」は、学び続けることで、今日より明日のほうに何かを知り、何か上に行けて、その人の幸福度に直結するこどものための教育というのは、割合は低くなっているのではないかという意見を踏まえまして、文頭の「こどもも大人も」という文言を削除しております。

①番の「人生１００年時代」の文言につきましては、国県の計画でも使われている表現ではありますが、実際には１００年生きることのほうが少ない現状もございますので、高齢化を表す別の文言がふさわしいのではという意味を踏まえまして「長寿社会」という文言に修正をさせていただきます。

②番、③番の「体制を作ります」「体制を整えます」という表現につきましては、大綱に明文化すると実現性が問われるのではないかという御意見を踏まえまして、「図ります」という文言に修正をし、併せて家庭教育の大切さ、重要性というのを大綱に明記してほしいという御意見もありましたので、②番に「すべての教育の出発点である家庭教育の充実を図ります」という文言に修正をさせていただきます。

大綱につきましては、以上の内容で修正部分になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

続きまして、高砂市教育振興基本計画について御説明願いたいのですが、前回お示し

をした第4期高砂市教育振興基本計画コンセプト、それから第4期高砂市教育振興基本計画骨子案を基に、これまで2回にわたる教育振興基本計画策定検討委員会での検討、協議を経て、第4期高砂市教育振興基本計画（素案）として作成されております。

まずは教育部より資料の説明をお願いいたします。

#### ○事務局

資料の高砂市総合教育会議の教育振興基本計画の関係資料をお願いいたします。

9ページ以降に素案、計画の素案のほうをお示しさせていただいているところですが、分量がかなり大きいものですので、1ページからの概要で説明のほうをさせていただきます。

それでは、1ページをお願いいたします。

まず、1ページの上のほうの表ですが、第3期の計画から第4期への変更点についてお示しをしております。第4期の計画については、おおむね3期の事業の内容を踏襲したものでございますが、3期の計画については、大変、膨大で分かりにくい部分もあったために、第4期につきましては、重点的に行うものについて焦点を当てて体系的にまとめしております。そうすることによりまして、矢印の下になりますが、目標達成に向けた検証の質の向上と継続的な分析による取組の内容の充実、効果的で効率的な成果の創出につなげていきたいと考えております。

また、下のほうの表をお願いいたします。

第4期の計画の特色としましては、関係者からの意見聴取の実施を行っております。アンケートとしまして、児童生徒、保護者、教職員や学校運営協議会の委員の方々からのアンケートを実施いたしました。また、こども向けのパブリックコメントの実施も行います。また、施策の体系としまして基本目標を3本、基本的な方針を9項目、中心となる方向性を24項目上げております。また、SDGsとのかかわりについても明記をしております。

続きまして、2ページをお願いいたします。

施策の体系の内容についてです。基本目標1の学校教育については、3本の方針を上げております。1-1確かな学力の育成と、1-2豊かな心と健やかな体の育成、1-3学びと育ちの連続性を踏まえた教育の推進です。それぞれの方針ごとで、その下になりますが、主要な取組と重点として取組む内容についてお示しをしております。以下、この1-2、1-3と3ページのほうにも上げておりますが、おおむね、前回、説明させていただいた骨子と同じような形で上げさせていただいております。その中で前回もあったんですが、特に4ページの下のほうの表にあります、2-1、一人ひとりに応じたきめ細やかな教育の推進、こちらのほうでは一番上になりますが2-1-1、特別支援教育の充実という形で、特に、今後、充実をしていくべき必要があるというところで特出して項目を上げているところがございます。

7ページの生涯学習まで項目ごとで上げさせていただいておりますが、前回、説明させていただいた骨子とおおむね同じような状況となっております。これらの施策を踏まえて、今後につきましては、推進体制としまして教育委員会だけでなく、庁内の関係部局とも連携を行いながら、また総合教育会議においても市長や教育委員会とが共有課題や取組む内容について協議をしていき、取組を着実に推進していきたいと考えております。

また、進行管理につきましても、PDCAサイクルを基本とした進捗状況の進行管理を行っていきたいと思っております。

また、計画素案の中には、KPIとして指標を入れるような形をつくっておりますが、現在、調整中という形になっております。ここでは市民の方々が分かりやすいようなK

P I を取り入れていきたいと考えておるところです。これらの素案を基にしましてパブリックコメントを1か月間行いまして、御意見を伺いながら最終の計画としていきたいと考えているところでございます。

説明は、以上となります。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。

それでは、皆様方と協議に移ってまいりたいというふうに思います。

まずは修正させていただきました教育大綱に関する御意見について、教育委員の皆様方から御意見を賜りたいと思っております。

まず、意見を交わしていく中におきまして、必要に応じて教育振興基本計画にも触れると思いますので、両方合わせて、中心となる大綱についての御意見をまずお伺いをさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○山名克典教育委員

いいでしょうか。

○都倉達殊市長

どうぞ。

○山名克典教育委員

市長がこのかぎ括弧を付けたことに関して、先ほど強調したということで言われたけども、教育のまち高砂がこれのどんなふうに取り入れるかということで、前回もお話あったんですけども、言葉がすごくいい言葉で、響きもあって、感動的で、期待する、わくわくする、いろんなことを感じていいと思うんですけども、ただし、それが、今、言われてかぎ括弧まで付けて強調したということですけど、実際、教育のまち高砂いうのを市長自体がどんなふうな形でイメージされていて、どういう思い入れをされて、どういう教育の施策をどんなふうな形で反映して、どんな、極端にでも目標を立てて、教育のまち高砂いうのをつくり上げていこうとされているのか、市長のお考えをやっぱりお聞きせなあかんと思って。なかなか、すいません、言葉だけで、この現在の、現実の高砂の現況を見ますと、やはり教員もこの前からテストの問題とかいろんなこともあって、いろんなことです、成績取ればいいわけじゃないんですけども、人となりの人生いろんなことありますし、大事な人、言葉、人間とかも育てる意味では、教育全てあらゆる面にわたりますので、成績だけとは限らないんですけども、そういうのに関して実際、1個1個どんな形をするのか、高砂の現実を見たときに、これからすごくそういうかぎ括弧付けて強調されたことに関して思い入れ、その意識を、結局、僕らと教育委員と、市長とのこの共有する、言われるのもそうですねという形の思われていることが、そこら辺までもう一つ何か伝わってきてないような気がしますので。教育委員で話し合ったときに、市長の入れ込みがすごく、すごく感じるんですけど、具体的にはどんなことをされるんだろうという、そこはすごく気になるので、やはり率直に教育、市長のこれを教育のまち高砂というのはどんな形で考えられているのか、十分説明いただきたいなと思っておりますけど、そこから始まるかなと思っておりますけど。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。まず、別にかぎ括弧を付けて強調したから、すぐすごい教育のまちが進んでいくかということでもないとは思いますが、やはり市民の皆様、また

こどもたちにも、こういうところを目指すんだよというところで、まずかぎ括弧を付けさせていただきました。

理念の中にも、ともに育み、ともに認め合い、未来へつながるという、この流れを振興基本計画の中でも掲げております。といいますのも、やはり教育環境が、最近、特に不登校問題であるとか、いろんな教育現場においても、いろいろ変化をしてきておる中におきまして、私のほうは考えといたしましては、こどもから生涯教育に至るまで楽しく思えるような教育の環境を整備をしていきたいという思いがあって、教育のまち高砂ということできくらせていただいております。

その中には、この基本方針の中にも三つ掲げております、こどもが主役の学びの中で、質の高い教育をまず行っていくという中におきましては、いろんな御意見を委員の皆様方からいただいた中で、今回、修正もさせていただきます。非認知能力の育成を図りますという中におきましては、やはりテストの結果だけではなく、一人一人のこどもたちが意欲を持って、好奇心を持っていたりいろんな探究心を育むという中においては、これから一番大切なことであって、社会に出ていったときにテストの点数だけではなく、こどもたちの心の中できちとした教育を育みながら、学校現場では教師の方々と一緒になって育てていき、また家庭では家庭教育を充実させていくという中においては、地域の方々にも御協力をいただきながら進めていく必要もあるかというふうに思っております。この（２）番の中でも、ニーズに合った教育環境を創っていく中においては、やはり先ほど申し上げました、地域の実情に応じた新しい時代の学びをつくっていく必要があるということも考えております。

それと教育現場におきまして、こどもたちの教育の学びやすい環境づくり、それと教師の方々がICTを通じて、今現在行っておりますけど、これからどんどんこどもたちが、将来、社会に出ていくときには、もっと時代背景が変わってきていると思います。そこにはこれからいろんな総合学習においても、いろんな教育を取り入れながら伸ばしていく教育、一人一人の意識を持っていただくような、こどもたちが探究心だけではなく、またいろんなチャンネルを使った教育を提供することによって発見していただいて、一人一人が興味を持った中で伸ばしていく部分を育てていきたいなというふうに思っております。

その中でも、家庭教育っていう中においては、やはり生活習慣であるとか、他人を思いやる心であるとか、いろんなことを家庭の中で学べるものと、また学校の教育現場でいろいろ学んでいくことも必要になってまいります。そういったことで、私は、この高砂市の教育をやはりもっともっと伸ばしていきたいという思いで、このような教育のまち高砂ということで目標設定をさせていただきました。

#### ○山名克典教育委員

いいでしょうか。すいません。それなりの概念、総論的なことはすごく分かるんですけど、僕個人として非常にこの教育のまち高砂という、こういう強調されるに当たってのこの、一つ僕は大事なものは、一つこの施策を何か、いわゆる重点的なもの何か一つどれか決めた、いわゆる重点項目を本当に何個も、この教育委員会のこの点検評価とかあったりするんですけど、やること全部いっぱいあって、その中でいっぱい評価は出てきてますけど、それも、全部、中で重点では項目いっぱいありますけど、さらに、今回、教育のまち高砂と言われるに当たっては、これって何か一つなり、二つなり思い切った、これだけはやっぱり目標つくって、市長が主導していくような形の何かあってほしいなという気はしたんですよ。それで何がこれ、結局、今までの施策ずっと網羅して、評価も出てきてますけど、やっぱり、例年、同じようなことばかりで、何か一歩踏み出すためには、教育のまち高砂いう形になる、どれかを１個やって、地道にそれを継続して

いく、これだけは絶対やっていこうという形の何か決めてる施策とかそんなあれば、やはり皆さん、僕は地元だし、市民もこれをやろうとしてるんだという分かりやすいところがあるかなということがあって、この、今、市長が言われたこと全てもっともで、大綱の中に書かれたこと、これから教育基本計画の中にもずっと入ってるんですけど、あえて言われたことに対しての、その何か伝わってくるのが欲しいなと思とんです。すいません、難しいとは思いますが、具体的なことは、なかなか言えないんだろうと思いますけど、他市とは違う、近隣の市とは違う、何らかのこの教育に関する、何かをしよう、クラブ活動のことに関しても新たなことを、地域移行に関しても違ったクラブの在り方とか、そういうのを考えを持って、やはり一本、何年間もの長いスパン、5年なら5年、明らかに5年なら5年なりのスパンでこれだけは達成していったって、そういう状態を独自のそういう形、クラブの在り方にしたって、教育の在り方にしたって何かつくり上げられるものがあたらうれいし、それに対しての協力いろいろ僕らもやっていったって、いきいたいと思とんですけどね。また難しいところかもしれません、すいません。

○都倉達殊市長

いやいや。まず、一つ、小中学校において教育長とも一緒にいろいろ意見交換しながら進めているのが、やはりSTEAM教育、各臨海部に多様な大手企業が、幸いにしてこのコンパクトな高砂市に企業があるわけですね、中小企業も含めてですけど。そういった中では、こどもたちにどんな、将来、職業に就いてもらえるかというところについては、総合学習の時間を通じて各企業、この前も商工会議所で、ある企業さん、東洋紡さんですけど、科学の私たちも話を聞かせていただきました。そういったときにこどもたちにも、いろんな科学であるとか、機械的なこととか、三菱重工さんでは、今、タービンのああいう開発をされてます。いろんな勉強のツールが広がる可能性を持っています。そこには、この高砂市のこどもたちにとって、それを生かさなくてはいけないというふうに考えてまして、そこをどういった形でこれから進めていくか。それと生涯教育においてもリカレントとか、やはり仕事を終えられた方々も、これから文化的なことであるとか、考古学であるとか、いろんなことも含めて、もっと学びをしたいという人たちがおられます。そういった方々についても、教育できるような環境整備を進めていくことによって、やはり高砂に住んでよかったなと思ってもらえるような地域を目指していく。その中には高砂だけではなく、兵庫大学っていう大学も近くにありますので、そことどういう連携をしていくか、連携協定はしておりますけど、その中でいろんなチャンネルの教育を学べる機会ができれば、意欲的に市民の皆様方も参画していただけるんではないかなと思っておるところでございます。そういったところで、一人一人の教育は、すぐに結果が出ないかも分かりませんが、やはりいろんな考える力を付けるということがまず基本だと思っておりますので、そういったところの環境整備と、それと学ぶチャンスをこどもたちに示せたらなというふうに思っております。よろしいでしょうか。

○山名克典教育委員

僕。また後。

○都倉達殊市長

どうぞ、他の方ございましたら。  
神尾先生いかがですか。

○神尾信作教育委員

もう先ほど市長さんがおっしゃったことと、ほとんどもうおっしゃったところなんですけども、僕、基本方針の（１）の②主体的に学ぶ力や、やり抜く力、自己肯定感、自分と他者を大切にできる力などの非認知能力の育成を図りますというところで、これを付け加えていただいて本当によかったなと、うれしく思ってます。特にこの中では、自己肯定感とか非認知能力というのが、先ほど市長さんがおっしゃったようにキーワードかなと思ってます。先ほども教育委員会の中で全国学力・学習状況調査のリーフレットが出てきました。それではやっぱり数値化される、今の学力がちゃんと全国と市内と比較した棒状のグラフが出てきて、もう明らかにそれは分かるんですけども、その横に今回のリーフレットについていえば、そういう、いわゆる数値化できない部分の文言も入っていました。少しまた変わってきてるなと思うんですけども、これからはそういう好奇心だとか、先ほどおっしゃった、優しさとか、そういう部分の非認知能力、自己肯定感等々、車輪のように進めていかないと、これからの教育は成り立たないなと思ってます。

ちょうど１週間前なんですけど、先週の木曜日に播磨東地区の教育委員会の研修会がありました。ちょうどその中身がまさしく、この自己肯定感とか、非認知能力という言葉がちょこちょこ出てくるようなそんな研修でした。その御紹介をちょっとしたいなと思ってます。講師の先生は、一般社団法人日本ポジティブ教育協会代表理事の足立啓美先生という方で、演題はレジリエンス教育、副題として、逆境や困難に立ち向かう力という、そういう演題と副題がついていた講演会だったんですが、レジリエンス教育っていうのは、時たま耳にすることのあるそういう言葉なんですね。最近、結構、日本でも取り上げられているようです。その先生の説明では、もともとは心理学で使われてた言葉だそうです。困難や逆境に直面したときに立ち直る力、反発する力、そういうのを養う教育で、教育ですから、もちろんそれをトレーニングとか、教育で力を付けることができる、そういう力を養うことができるということなんですね。日本では２０１１年３月の東日本大震災のときに大変な状況からどうやって回復するか、元気を取り戻すかということで、このレジリエンスという言葉が注目されたり、あとは２０２０年には、誰でしたっけ、宇宙飛行士の野口さんが自分の乗る宇宙船にレジリエンスという命名をして、そこでまた脚光を浴びてきたようなそういう言葉なんですけども、まさにこのレジリエンスというのは非認知能力の一つだというふうにおっしゃってました。

ですから、繰り返しになりますけども、これからは、いわゆるレジリエンス教育も含めて、認知能力と非認知能力が上手に両輪として動かしていく、そういうことが特に大切だなと思ってますので、（１）の②番目にこういう言葉が入ってるというのは、よかったなと思っております。

以上です。

#### ○都倉達殊市長

ありがとうございます。これ言葉で非認知能力育成を図りますというふうに書かせていただいたんですけど、大変なかなか教育現場でも難しい課題だというふうに認識します。家庭教育もさることながら、やはり両方が連携をしながら、こどもたちのそういう、何て言うんですかね、好奇心、向上心であるとか、いろんな心の持ち方であるとか、そういったところをどうやって一人一人を教育していくかというのが、一番難しいところだというふうに認識はしてるんですけど、それをやらないとこどもたちが社会に出たときに一番に戸惑ったり、また悩んだり、いろんなことでやる気をなくしていくスパイラルに入っていくのではないかなというふうにも思ってます。いろんな国数英、いろんな勉強の学力を上げていくのも大切なことなんですけど、それと併せてやはりこの非認知能力っていうのは一緒に伸ばしていく必要性があると私は思っています。

どうぞ、吉屋委員。

○吉屋章教育委員

いいですか。私、基本方針のこの細かい具体的なところは、これは基本計画のほうにもあるし、教育委員会のほうで実施していくことやと思うんですけど、私も基本理念から市長のビジョンというか、どういうイメージを持たれてるかっていうのをちょっと教えていただきたいんですけども。教育のまち高砂というものをつくっていくに当たっての手法というか、中の内容が、ともに育み、ともに認め合い、未来へつながるということやと思うんですけども、この中の、ともにっていうところ、ともに育む、ともに認め合うっていうのは、誰とともに何をしていくのかみたいな、そんなんきっちりじゃないんですけど、市長のイメージ、この、ともにというのをい出して、ともに育んでいくんだ、ともに認めていけるようなものにつなげていくんだっていうところの、ともにっていうところのイメージをちょっと教えていただきたい。それから未来へつながる、これも教育のまちっていうところ、未来へつながるということも出されてるんですけど、これは先ほど説明あったように、学力というよりか、実際にこれから生きていくっていう、そういう質の高い教育、その辺のことには市長はされてたんですけど、やっぱり未来へつながる教育ですから、どうしてもＩＣＴ教育、この辺のところに関わってくると思うんですけども、このＩＣＴ教育の今の高砂市の現状、できてるところ、できてないところ、ほかと比べてのスピード感とかそんなんも含めて、その辺もどれぐらいＩＣＴ教育っていうものが、市長、大切に思われてるかっていう、その辺の重要性っていうものをちょっと聞かせていただきたい。この、ともに育み、ともに認め合い、未来へつながるっていうこの市長の考える内容をお聞かせいただきたいんですけど。

○都倉達殊市長

ともに、という両方に頭に入れてるんですけど、これはやはりこどもから大人まで高砂市民が、みんなが一緒になってという意味合いであると考えています。個々の一人一人の人間としての認め合うこと、それが一番根幹にあるというふうに思ってますので、やはりそれぞれ一人一人が育みながら、また認め合いながら、一緒になって未来へ向かっていこうよという意味合いの、高砂市として全体が同じ方向を目指そうという思いがあります。

それとＩＣＴ教育の重要性については、やはりこれだけスピードが速く、いろんな社会の中でも進んできております。スマホ一つにしても、インターネットにしても情報がすごいあるわけですね。この情報社会において、今の小中学生が、将来、社会に出ていくときにはもっと変わって、変化してきているという状況が考えられるので、やはり教育現場において国、文科省からのいろんな、また指導、また国からの予算とか、いろんなことがこれからも進んでいくとは思うんですけど、いかにして教育の内容、ＩＣＴに関しては、どういったこどもたちに提供できるかというのをいながら、それと併せて、やはり現場のほうでは教師の方々にも向上心持ってＩＣＴ教育に関してこれから進めていく中には、レベルアップも必要ですし、こどもたちと一緒に学ぶ中において、指導していただかななくてはいけないし、サポートする人材も必要になってくる可能性もありますので、その辺はやはり市として教育の内容を深めていきたいなというふうに思っております。

○吉屋章教育委員

ありがとうございます。ともに、というところですけども、やっぱりそこがすごく難しく、高砂市だけじゃないと思うんですけど、非常に不十分というか、苦手な部分だと思う。私は市民側ですんで、ですから、これ教育の分野だけじゃないんですけども、

市民、家庭も含めた、地域も含めた、市民との連携とか、ともにっていう部分に対してのバックアップをもっとどんどん行政のほうからしていただきたいんですね。だから、その辺が、地域のほうで一緒に何かしていこうかなと思ったとき、何かちょっとややこしかったり、いろいろとこの市からの一緒にやっていくんやで、今、市長が語られたような思いみたいなものも、なかなか伝わってなくて、もうその辺がすごい連携っていうところも高砂市って苦手なので、ほかもかもしれへんけど今、苦手なのかなと。市民の側は家庭も地域も含めて、結構、こどもの教育のことなんか興味あって、何でもやるよ、協力できることするよという体制はまだあるんで高砂市、もうどんどん市長の、教育委員会のほうは教育委員会のほうでそれやっていきますけど、市長のほうからもできる行政側のバックアップみたいな、何かその辺のところをどんどん応援、地域を応援していただきたいと思うんです。

それとICTに関しても、これも私も非常に大事やと思うんです。各ほかの他地域と比べて、高砂市の中だけでも学校によってあるかもしれんけど、これ格差がどんどん、どんどん出ていく分野、力入れる、入れへんによって。だから、高砂市の中でも、できてる学校と、できてない学校、ここに差はもうやっぱり既に生まれてきてると思うんですけど、そういう形でやっぱりこれを満遍なく、ぐっとレベル上げて、ほかについていけるようなICT教育を進めていくのであれば、それなりの市長のバックアップが、要はお金ですけども、そちらのほうもちょっと、今、市長が大事やいうて、おっしゃっていただいたんで、その辺もお願いしたいと思います。これは、また予算要望、行政のほうからの地域とか、そういうところの予算とか、予算措置とかのバックアップっていうのは、重点、この基本理念をかなうように、教育のまちって市長がかぎ括弧でばんって出してくださってるから、ちょっと大胆にお願いしたいと思います。

#### ○都倉達殊市長

そうですね、今、吉屋委員おっしゃったように、地域、格差があるとはいえ、やはりこどもたちのことだけではなく、3世代交流であるとか、地域の交流が進んでいるところのを参考にしながら、またどうしても人口減少に伴って、それがうまく機能していかない地域もこれから出てくる可能性もあるので、そこをどういうふうに行行政側も関わりを続けながら、地域の方々と一緒に連携を深めていくというのが、これからの時代の中では一番必要になってくるんじゃないかなと思ってます。いろんな各種団体においても取組をしていただいておりますけど、やはり団体ごとの中では、いろいろやっていたくけど、団体の連携がどういうふうにするのか、また、こんなことは起こってはいけないけど、災害発生したときの地域の交わる、助け合う心といいますか、そういったことも重ねてやはりつくっていかなくてはいけないのかなと思っております。

#### ○吉屋章教育委員

地域の、私らも地域のほうですから頑張っていけますんで、またお願いします。なかなか行政だけとか、地域だけで、もう何か解決できへんような課題が増えてきてるんで、やっぱりもう連携していかなと、部活動の地域移行であったり、コミュニティスクールの発展であったり、そういうことも、もう行政だけとか、地域だけでは、学校だけではもちろん無理ですので、ちょっと本当に連携が大事になってくると思いますね。ありがとうございます。

#### ○都倉達殊市長

吉田委員からお伺いします。

○吉田美香教育委員

この基本理念で、ともに育み、ともに認め合っていくのを、とても読めば読むほど温かい言葉ですね。こういう中で育てば、きっといい子に育つだろうなと思うんですけど、私たちが幾らいいいことを話し合っても、直接、こどもに接しているのは、やっぱり先生方、それから親御さん、おじいちゃん、おばあちゃんとかもいるんですけど、そうしますと、やっぱり先生方、働き方改革とはいっても、かなり厳しいんですよね、いまだに。教育大綱でも、この基本計画でも、そんなに先生方の心身の健全とか、学びの場とか、そういうことにはあんまり重点が置かれていないように、私、個人的に感じてしまうんです。一番大事な方々だと思うんですね、直接、触れてますから。こどもってすごく、いろいろ、ややこしいところもあったりするので、よほどこちらに気持ちの余裕がないと難しいところもあるじゃないですか。そうすると、やっぱり先生方や、お母さんたちってというのは、かなり精神的に安定していないと、いい教育できないと思うんですね。それをちゃんと提供できてくるかっていうこと、もう一回、一生懸命ちゃんと考えないといけないんじゃないかなと感じています。先生方も授業が終わってから、その後の時間、やっぱりクレーム対応、すごい多いんですよね。もうびっくりするほど多くて、やっぱりクレームをしてくる保護者の方たちも満ち足りてないし、何か追い詰められてるから、どこかに何かこう助けを求めてっていうか、何かそういうところが親の方にも、先生のほう、先生たちもそれをやられると、やっぱり精神的に追い詰められますし、まだまだ若い先生方は、それこそついこないだまで大学生で、こどもという立場で生きてきて、ある日、突然、三十何人の親代わりみたいな仕事をするわけですね。それは大変なプレッシャーだろうし、そんな簡単に人って成長できないので、大変な思いをされてると思うんです。頑張ってるんですけども、やっぱり心を病んでしまう方もいらっしゃると思いますし、そして、こどもたちが、これも教育の成果って言うとおかしいですけども、精神回復力が年々弱ってきてるんですね、若い人は、なかなか一つのダメージに対して回復する力がなくなってきてる。ですから、離職率も高くなる、ということは、やっぱりよその市もそうだと思うんですけど、高砂市も教育のまち高砂っていうことは、まず教育環境、教育環境の一番大事な根っこってというのは、やっぱり教育者、先生方、それから御家庭っていうところが、こどもたちを温かく見守れるだけの余裕を持っていたらいいような環境づくりというのを一番にまず整えていかないと、なかなかよくならないんじゃないかなと思うんです。ですから、いろんなクレーム対応については、今、スクールロイヤーっていうものも問題になってて、かなりの普及率ですね、調べてみたら。ですから、そういうことも、もしも、できれば考えていただきたいですし、お母さんたち、保護者の方たち、おじいちゃん、おばあちゃんにとっての何か気持ちが安らぐようなことっていうのも、市のほうで何かいろんなことを考えていただけたら、難しいとは思いますが、ありがたいなと思いますし、何かそういう意味で、教育っていうのを広く、根っこから考えていただけたら、まずは教職員の状況をよくしていただくために何か御協力いただけたらなということを感じていますので、どうかよろしく願いいたします。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。大変やっぱり教師の方々も、また家庭の御両親も、こどもたちに対しての余裕を持った接し方ができれば一番最高なんですけど、大変、日々の仕事に追われて、そういった中で、どういった接し方をするかというのは、大変、難しいところもあるし、またそれをやっていかなくてはいけないという現実がありますので、市、また教育委員会としても各教育現場のほうの先生方のフォローもしながら進めていきたいというふうに思っております。先んだって市ノ池公園で教育長とも一緒に行ったんで

すけど、高砂市子ども連絡協議会が親子のウォーキングをして、またこどもたちが一人一人いろいろ考えた中で、ブースでいろんなこどもたちと触れ合う、コミュニケーションつくってやってみましたけど、私も一緒に参加してやらせていただいたら、やっぱりこどもたちが生き生きとして、そういったことに取り組んでる姿を見て、ああ、これがもっと広がったらいいのになというふうに思いましたね。親御さんも、やはりこどもが一生懸命そういった取組をしている姿を見て、うれしく思っていたと思うし、家庭ではできないことをそういった団体、各種団体のほうでいろんなイベントを通じて、学びを深められることができたなら最高だと思いますね。だから、教育長、教育現場のことで、ちょっと、今、言われましたので、何か現場のほうでのこれからの方向性といいますか、何か御意見ありましたら、御意見というか、回答。

○玉野有彦教育長

回答、まずは。

○都倉達殊市長

やっていくよ言うて。

○玉野有彦教育長

先生方の心身の健康、それから、やる気ってというのは、やっぱり教育委員会が学校長を通じながら、職場環境を整えて進めていかなあかんねんけども、私が一番思うのは、先生もやったら面白かったというような、自分らがわくわくするような授業づくりをしていくことが大事と思っています。働きがいが高められるような職場環境をつくらなあかんと思っています。そのためには、やっぱり教員同士のつながり大事かなっていうようなことを私は思っています。それを合わせて、やっぱり市長がこうやって書いてくださってるのは、私の考えと一緒にだと思って読ませていただきました。みんなが学んでいる状況、みんな関わっている状況が高砂市に生まれてきたらいいかなと思って、基本理念がとってもよいなと思って読みました。それをより教育の分野で具現化していくのが私たちの仕事だと思っています。これから出てくるキーワードとしては、「つながる」っていうことが大事かな。家庭と学校、家庭同士、地域と家庭、校種間いろんな人とつながりをつくっていくことも大事だと思います。つながったところから巻き込んでいくような状況にまで高めていくことができたかなと思っています。それが地域とともにある学校づくりであるって思うんですけども、ただ学校運営協議会の委員さんだけじゃなくて、地域にもっと呼びかけて、地域が学校に入ってくれるような形で進めていって、そこでつながりが生まれてきたらなというように思っています。市長に要求する、お願いするようなことは、人、もの、金をちゃんと付けてっていうようなことやと思うんやけども、やっぱり一番私が大事にしていきたいなと思ってるのが、環境づくり、もう教員も含めてなんですけども、ICTも言われたようなことを思いますし、それから老朽化の対策についても、私は大事なことやなと思うのと、もう一つ市長がこれ力入れてくださってるんやけど、不登校支援、それから特別なこどもへの支援、外国にルーツのあるこどもたちの支援、もう誰も一人残さないような環境をつくっていくっていうのがこれから大事なことやなと思っています。

○都倉達殊市長

一巡、委員の方々から御意見いただきましたけど、もう少し大綱について御意見もしあれば。

○山名克典教育委員  
いいですか。

○都倉達殊市長  
どうぞ。

○山名克典教育委員

今、この先生方の働き方とか、いわゆる教育環境どうのこうのいうことからつくと、今、教育長言われましたように、やっぱり人と、ものと、金それなりのものが必要であって、国からのあれでも、新たに何か国費でも人を雇えるような形が出てくるいう形が出てましたし、だから、ソーシャルワーカーもいない、本当に少ないし、今がぎりぎりの教員の配置で、どっかの先生が担任したらあかんとか言いませんけど、それなりの人数の余裕がない限り、余裕のある教育もできないと思いますから、やはり人と、市費でもいいから人を雇えるものは市長の言われてるものは、教育の場合、高砂って、絶対、先ほどから言ったのは、それなりの目に見える形の何かを施策をしてほしいと、お金をかけるならかけて、そのスクールアシスタントとか、いろんなことをどんどん、どんどん、それなりにはどんどんじゃないです、微々たる、ちょっとずつは増えていってますけど、それをもっと充実した形の一步、先ほどありました大胆な形での、明らかにこういうことをやるんだということをやっていたら、そういう成果を見せていただきたいんですよ。それで環境を整えて、先生方の働き方のこともあるし、それだけ人数が増えればこどもの環境もよくなりますし、それで先ほど言った不登校のことに関しても、今やったらがつがつの状態で、言葉で言っても先生方ががつがつで、なかなかその子の、不登校の家へはなかなか行けないし、接触できないし、それでやはり余裕がないから、それなりのコンタクトができてないから、そういうどうしても取り残されていくような環境に置かれていってる状況、それが現実です。だから、言葉で言っても、やっぱり不登校の子たちはコンタクト、全然、取れないと、1学期間、全然、学校へ来てません、それで連絡取ったけども、全然、連絡取れてませんというのが現実にはやっぱりあるんで、それと今そういうのが駄目なんで、それといろんなこと先ほど言いました、市長がこども、親と、保護者とそういういろんなことをするに当たって地域の方々が、高砂市がそれなりのことをやって、やってること単発でやっても何の意味もないんで、それを常に頻度の高い形で、保護者なり、こどもたちが、教育委員会あるいは市の当局からと、そういういろんなことに関しての人との交わり、それなりの互いの認め合い、それなりの事業イベントなりする、そういうのが、数多くイベントをやれいうわけじゃないですけど、結局つながりが感じられない、疎遠になってる、あっても、それ単発であるような形の、それはやっぱり、ちょっと違うんじゃないかと。やはり自己満足に陥ってしまう傾向になってしまうんで、やってます、やってます言うて、一つの経験、成功体験をいつまでも語ってもしゃあないという形になってしまうんで、やはりいかに密に、いかにその子たち、その人たちと家庭教育に関しても接触していくか、その努力の仕方というのはすごく大変だと思うんですよ。そのためには、やはり人材を増やしていかなきゃならないし、それなりの教育委員会としても、いろんなことを伝えていって、家庭と、あるいは保護者、こどもにも、やはりもっと積極的にいろんなことを伝えていって、交わっていかなあかんという。でも、これもやっぱり金がかかるかなと思いますけど、それなりにやっていたら、市長側には大胆に予算を付けてもうて、人を確保していただく、そこから始まっていくのかなという気がしますので、そういうところを期待したいと思いますけど。

○都倉達殊市長

山名委員のほうからは、常々やはり人材、それと予算という大きなテーマを与えていただいております。当然、大きな財源の中で教育に関する予算措置、少しずつ整備はさせていただいていると自身は思っているんですけど、なかなか不登校対策についても、やはり人間同士の部分で接していくことと、それと環境整備、学校の中、それとほかの、もし出て来られる、出てきやすい場所を提供していくという、いろんな形の施策をこれからも続けていきたいというふうに思っております。

昨日、プレス発表済んでいまして、12月の定例市議会で小中学校空調設備、体育館の空調設備を導入していくというのをこの議会に提案させていただく予定にしております。やはりこどもたちの熱中症対策、これは喫緊の課題でありまして、周辺市町では、まだなかなか進んでいないわけですけど、先行して高砂市で進めていこうとしております。また議会のほうで議決をいただいたら、次の来年の夏までに間に合うように進めていきたいなというふうに思ってます。これも大きな予算を必要としております。これはこどもたちだけではなく、やはり、今、全国的に激甚化、台風災害が頻繁に、どこで起こるか分からない状況になっておりまして、小学校、中学校の体育館をもし避難所として開設した場合には、台風シーズン、特に暑い時期でございますので、そういった対応をやっていこうということで、予算措置をしようとしております。教育現場の設備のこれからの修繕に関しましても、スピード感を持ってやっていこうというふうにも考えております。こどもたちのやはり教育の環境整備、これは、大変、重要な課題であります。それと併せて教育の内容、それと先ほどから申し上げてますようにこどもから高齢者を含めた生涯学習も含めて、これから高砂市の教育をいかに進めていくかによりまして、この高砂市の教育っていうものが充実してくるのではないかなというふうに思っております。

それでは、ほかにありまして、また続けていただいたら結構でございますので、これから教育振興基本計画の案に対しまして、御意見を賜りたいというふうに思っております。

まず、私のほうからちょっと御質問をさせていただいた後に、委員の方々から御意見を賜りたいというふうに思います。

私のほうからは教育振興基本計画の中で、教育長のほうで特に重点的に考えておられることをちょっと教えていただきたいなというふうに思います。

○玉野有彦教育長

まず、これから世の中、本当に、もうすごいスピードで変化をしていって、どんなことが起こるかいう予測も分からないような時代がやってくると思います。その中で、生きてくためには、やっぱり自分で考えて、自分で学んで行動するような力が要るように思います。それから、いろんな方々と協力しながら、自分を、自分も含めた人をコントロールするような、自分を律しながらも、みんなと協調していくような力が要るかなと私は思っています。そういうことが、そういう力をつけていくための5年間に組みたいことを、資料の中の22ページと23ページにまとめました。そこをちょっと開けて見ていただいたらと思います。

まず、3期の基本の理念としましては、ふるさと高砂を愛し、思いやりと、たくましさに満ちあふれた人づくりっていう基本理念だったのですが、もうその、「愛し」を、高砂を「つくって」いってくれるこどもになってほしい、また大人になってほしいっていう願いを込めて、思いやりと、たくましさを持ち、ふるさと高砂の今と未来を創る人になってほしいとしました。未来のためにやるんじゃなくて、今の自分のためにもやってほしいし、未来もやってほしいっていうことで、このような形で基本理念を出させて

いただいております。そのために先ほど言いましたように、社会をつくろうとする人が目指す人間像①でございます。自分の夢を実現するような人になってほしいというのが目指す人間像の②でございます。どのような方向から進めていくのは、教育大綱で市長が示してくださっているというような基本理念にのっとって、三つの方向から進めていきたいと思っております。先ほど環境のことはお話しさせていただいたと思うのですが、不登校、特別支援、外国のルーツなど特性をもつ子どもたちを包み込むような人的支援が要るかなと思っております。教員だけではちょっとしんどいと思うので、そこを市長部局が応援してくださっていると思うので、それをより有効に使わせてもらいながら子どもたちの成長につなげていきたいと思っておることと、それと校舎などの老朽化対策はもう急務であると考えておるとともに、子どもたちにとって適正な学校規模ってどんなやろうとかいうようなこと、それからＩＣＴの環境も含めて、安全で快適な物的環境の整備にも努めてまいりたいということで、基本目標２は、そのような教育環境の創造とさせていただいております。いっぱいやりたいことがあるので、その辺は、今、話をさせていただきます。

基本目標の１につきましては、市長の御示唆もあって、産官学の連携も図りながら、子どもたちの主体性を育みながら、情報活用能力、それから探究的な力、言語能力を高めるような教育を進めてまいりたいというふうなことを思っております。それと、こども園と小学校、小学校と中学校が接続したシステムづくりもつくっていききたいと思っております。ただ、子どもたちの人権感覚を磨きながら、自己肯定感を高めたり、互いに認め合う豊かな心も育てまいりたいと思っております。

最後になりますが、市民が総がかりで関わってくれ、家庭、地域、企業と連携しながら、こどもが学び合う場であったりとか、学び直すことができる機会をつくりながら、人づくり、つながりづくりとかを進めてまいりたいというふうなことを思っています。

まとめになりますけども、個人、社会のウェルビーイングを目指しながら、全ての人の主体性が高まり、探究心が付いてくるような取組を進めていくとともに、一人一人を大切にする教育を進めてまいりたいと思っております。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

ほかの委員の方々に御意見をいただきたいと思います。お願いします。

○山名克典教育委員

いいですか。

○都倉達殊市長

山名先生。

○山名克典教育委員

これは本当に、僕、個人の意見と思っていただいていい。ＩＣＴのそれなりのハードの充実がきちんと進んできるときに、もうこれからはソフトと運用の問題で考えていかなきゃならないんで、いつまでＩＣＴを使った教育のことを唱えていくかどうか。やはりこれはもう、当然、当たり前のこととして教育の中では、もう短期間の間に全国的にも、みんなそれぞれ１人１台つくような形になったら、それはもう当たり前の教育になってるから、あえてＩＣＴ教育どうのこうのいうて言わなくてもいいのかなという気はします。それでさらにそれを運用して、そこから波及していくことの違う勉強の仕方というのがあって、それから伸ばせられる、それとは別に一つの大きな反省点に入ってる

のが、機械、それなりのコンピュータ、ICTオンリーじゃなくて、人、人間味のある形、それと、いわゆる人と人のつながりといったときには、ICT、ICTっていったときの相反することと、人間味のある教育との、それを充実、相互に動かしていかなあかんで、全面にそれが出てきたときに反省点がすごく出てくると思う。もうほんで授業の内容の中でいろんなものを調べてますと、やっぱりICTでやって理解度が高まるかどうかいったら、使い方によっては全然、文章を読んだら、ディスプレイで見たら、文字として言葉、行間が読めないし、それなりのニュアンス伝わらないし、結局、それはそれで一つのディスプレイの欠点であって、紙の、ペーパー教科書、あるいはペーパーのそれなりのもの、小説読むのとは、それは違う形の意味があって、そういうのがあるから、その絡みで、それはメリットであるんだし、これも紙を使った形の勉強の仕方いうものやっぱりすごく大事であって、そこのいろんな、それ以外のことのことも、ICT教育、ICT教育というのは、もういいのかなという気は、当たり前のレベルに達したんだろうという。

○都倉達殊市長  
教育長。

○玉野有彦教育長  
当たり前のレベルには達するように持っていかなあかんねんけど、あくまでもコンピュータは道具だと思っております。

○山名克典教育委員  
そうです。ツールですからね。

○玉野有彦教育長  
はさみやと思いながら進めていかなあかんっていうようなことを私も思っています。そのためには、やっぱり使う、利用じゃなくて、いかに活用できるか、情報を活用する力を付けていかなあかんっていうふうな教育の仕方をしていかなあかん。だから、何ていうかな、もう、はい、それ見て書き込めじゃなくって、それを見てどう思うかとか、それを友達の見聞も聞きながら、自分の調べた情報を比べながら、自分はどう思ったんかというような学び方をさせていかなあかんっていうことを私は思っているんですけども。吉屋委員はどうですか。もうその辺は、きっといろいろ思いがあるやろうと。

○吉屋章教育委員  
確かにそうですね。いつまでもICT、ICTって、もうこれICT教育が必要は必要やけども、ここばかりに特化していく中で、やっぱり弊害の悪い部分がやっぱり出てきて、ネット社会とか、情報化社会の中でいろんなもの出てきてるから、今度はまた逆にそこを見つめ直して、その教育を進めていかなあかんような時代が来るかもしれへんね。私らが昔からやってきた経験とか、実際に体動かして、人と接して話す、人と接して話したりすること自体も、もう苦手になってきてますから、今、こどもたちが。それは、やっぱりそういう弊害も、これからまた出てくるんで、それが道具として、普通に使われて、多分、そういうところになってくるからね。

○玉野有彦教育長  
多分そういうことを山名委員がおっしゃっていると思います。

○山名克典教育委員

その人に合った使い方、その人がＩＣＴを使うことによってコミュニケーション取れる、先ほどの不登校とか、そんなんで、ひきこもりとか、いろんな対人恐怖症とかそういう、その方々にとってはＩＴ、いろんなことはすごくいいし、けども、でもそれも嫌や言う人もおるし、結局、ケース・バイ・ケースというよりも、人と人と、それぞれに対して、一人一人に対する在り方、接し方、そういうツールの使い方いうのがあるんで、一辺倒に一緒にやるということも、簡単なレベルでは、回答を一遍に出すとかそういうの、例えばの話、一つですればＩＣＴ使ってすごくやりやすいし、ほんでいろんなことを引っ張り出して違う教科書とか、それに載ってないようなことをいっぱい引っ張り出して見ていくような形、すごく深いことは調べていけますけど、それ以外のことに關しての在り方、使い方いうのは、個人個人に合った使い方があるんで、なかなか無機的な形のほうが好きだという子もおれば、とてもじゃないが、それを使いこなせないという形もあるからね。やっぱりこれからは十分な設備いうのをきちんとそろえ修理、更新していつてもらわなあかんけど、後の運用に関しては、これからはすごく、ちょっと考え方がワンステップ、ツーステップ上がった形で考えていっとかなあかんの違うかなという気はしてますね。

○玉野有彦教育長

市長には、学校に出向いていただき謡曲高砂を歌ったり、文化を広めてくださっています。研究会があったりしたら市長をお誘いしようかなと思っています。もうこどもらは、一人一人、ICTの使い方がいろいろになっています。タブレットを使ってる子もおるし、教科書を使っている子もいます。ICTを使って思ったことと、教科書を見て思ったことをどう自分の考えを出していくというのが大事なかなというように思っています。

調べ学習じゃなくって、調べたことをどう表出するかいうところに持っていく、プレゼン能力、表現力を高めるようなことをしていかなあかんいうことを思っています。

○都倉達殊市長

いえいえ。今、教育長がおっしゃったように、僕もＩＣＴに関しては、いろんな情報を取れる環境がもう整ってるんですけど、そこには、その情報をどういうふうに出すかという力を教育現場で教えてく必要があるんじゃないかなと。もうまさに今の世界的にも、いろんな情報が発信されてるわけですから、その中で正しい判断基準を育成してかないと、いろんな情報を取り過ぎて、あっち行ったり、こっち行ったり迷う、こどもたちがそういう状況になったら困るわけで。それともう一つはプログラミング教育もやってますけど、やはり工夫をする学び、それをどっかで、こどもたちは自分が得意、こういうのを得意だなと思ったら、それを集中的に学習していくと思うんですね。そういう学びの取捨選択ができるような環境を市としても、教育現場のほうでも、やっぱりやっていく必要があるかなと思っています。

その点について、神尾委員のほうから。

○神尾信作教育委員

ですね。最近のいろんな大統領選挙とか、知事選とか見とっても、どんだけインターネット、ネット、SNSですか、そういうものが我々の中にごく普通に入ってきて、それが我々の行動に表れているかという、ほんまに顕著な例がいっぱいあって、我々もそうですから、我々が担当する小中学生は、もっと大きな影響を受けてると思います。

自分の孫とかの動き見とっても全くそうで、本当によくできてますよね、ソーシャル

ネットワーク。それは一回見だしたら、もう離れられない、もう次から次に見るように上手にできてるなと思います。

ですから、そこをどういうふうに取り捨選択するか、リテラシーですね、そういうのを本当に、その部分もしっかり教えていかないと、本当に素晴らしいツールではあるんだけど、それが弊害になってまうのかなという心配はすごくありますよね。諸外国では14歳未満は使ってはダメとか、保護者のどうのこうのって、そういう規制があるねんけども、日本ではそういうの聞いたことないし、今、検討はされてるかもしれないけども、そういう意味では後進国なのかなと思ったり、あと、学校現場のことでいうと、自分、孫が病気でちょっと感染症かかったりしてるときに、リモートで授業あるんですけど、僕も横から見たりしてると、その時点でのやっぱり、どういうんですか、経験値の違いというんですかね、明らかにそれ出てきてますわ。自分が見てて、カメラも動かへんやみたいなのがあったりとか、この人めっちゃ上手やなって、ほんまに二人、三人が同時に休んでても上手に振り分けてて、うまいこと授業しているなと思うこともあるし。ですから、それは自分が実際に先生の経験値の違いってのもあるし。だから、進め具合が非常に激しいので、現場の先生方も、教えられることも私たちも、我々、保護者とか、その上の立場のものも、すごいなかなかそれに付いていけない。何か本当に、今、混沌とした状態だなというのは感じています。こんな感じですかね。

○都倉達殊市長  
吉田委員。

○吉田美香教育委員

先ほどおっしゃったように選択していくとか、それを統合して、自分の中で一つのものとして発信するとかいうためには、やはり、環境として必ず1人1つのタブレットが必要になるじゃないですか。それが何か基本、当たり前みたいになるんですけど、昔に比べて当たり前っていうことを整えるだけで、ものすごくお金が要るっていうことは、今の社会このままどんどんかかっていったら、どうなるんだろうと思うぐらい経済的に大変ですよ、普通の環境を整えるだけで。ですから普通の環境を整えていただくってことだけで大変だっていうことはよく分かるんですけども、それをまず整えていただけるっていうことをしていただいていることにはありがたいと思っています。

そして、子どもたちがそれを使いこなせるようになるだけの時間というのは、やっぱり学校の教育現場で平等に与えてもらえるようにしてほしいなと思いますので、担当した教員によって違うということでは、ちょっと困るんですよ。そんな当たり外れはちょっと困るので、ですから、そこのところはやっぱり、もしも苦手な先生がいらっしゃるんなら研修受けていただいたりしてでも、そこはもうフラットにしていだけるようにしていただきたいなと思いますし、そんなに大人が一生懸命教えなくても、子どもたちって発想力も私たちより豊かなので、何にでも上手に使いますし、ただ使い慣れていないとやっぱり使えないので、使うっていう機会だけは平等に与えてあげてほしいな。ですから、そういう意味で、よく吉屋委員さんがおっしゃってるんですけど、差が出てくるよっていうこと、指導者によって、そうすると、今度、高校に行ったときに、ほかの地域からどっと来たときに、すごく差が、最初スタートの時点から差があるっていうこと、すごくかわいそうなので、そこのところだけは注意していただきたいというのは、常々、思っています。ですから、最低限お金がかかりますけど、機器だけは子どもたちに、みんなが必ず使えるようにしておいていただきたいということ、平等に機会を、触るチャンスを与えてあげてほしい。それから、神尾先生がさっきおっしゃったみたいに、いろいろ保護者の方から聞くことによると、もうちょっと休んだけど、ち

やんと自分の部屋で授業を受けてたわっていう子もいれば、つながらなかったとか、何か通信側がうまくいかなかったのか、結局、つながらなかったから先生がプリント持ってきてくれたとか、いろいろなんです、まだ。ですから、そのこのところがもっともっと当たり前になってまだ言える状況ではないんで、そのこのところは、ちょっと時間をかけてでも粘り強くやっていただけたらなと思ってます。

○都倉達殊市長

今の吉田委員のお話で何かありましたら。

○玉野有彦教育長

いや、もう申し訳ないですが、教員の力量で差がこどもらに出てるっていうようなこともあるかと思うんですが、情報推進員、ICT推進員っていう方々を予算いただいて、各校に行っております。その方々が放課後、明日の授業どうすんの、どうしたらいいっていうようなことを相談を受けて、こうしようか言うて研修を受けたりとかして進めています。教員が自信を持ってこどもたちの前に立ってもらったらよいかなと思います。

ただ、これを教員が、こどもの学ぶ意欲が高まるとか、理解が深まるためにICT使ってほしいと思います。教職員研修はしていこうと思っています。

○都倉達殊市長

ほかございませんでしょうか。

○山名克典教育委員

違う項目以外で。何でもいいですか。

○都倉達殊市長

結構ですよ、全然。

○山名克典教育委員

クラブ活動の地域移行についての話なんですけども、市長の考え方がどんなかなとお聞きしたかったのは、今の、今日も先ほどの教育委員会の中でも話があったんですけど、既存のクラブ活動を地域移行しますけど、そうしたことと、今後、高砂市内における中学校でのクラブ活動の在り方というのはどんなをを考えていくかということで、僕は考え方としてクラブ活動何でもありだし、今、言いましたICTでいろんなことするクラブがあってもいいし、当然、今までもずっと今日も報告があった中では、各クラブいっぱいいろんなもんがあって、それをやりたいか、やりたくないかというのは、いっぱいあるんですけど、ただ、今日のデータ見てた分の中では、学校の中でそれらをつくろうという意欲はまだ出てないと思うんです。ほんでこどもたちも、実際、そういうクラブを自分らでつくって、新たなクラブをつくって、それを学校の先生方がサポートできることがあったらサポートしましょうと、普通、今の考え方での野球部、サッカー部を、バレーやったり、ハンドボール、それなりのクラブ活動とは違う形の簡単な、例えば、ゲームのクラブでもええし、囲碁でもええし、ICTのそれなりのプログラミング部みたいなもんつくってもええし、何かそういうののいろんなクラブの在り方が多様にあるような形のクラブを想定して、それでスポーツとか、文化的なもので何か特別なんやろうとすると、それは地域移行で、地域の中でやっていってもらっていくような、助けてもらっていくような形、共同でやっていく、そういうことってあるんですけど、学校の中のクラブ活動いうのを、当然いろんなクラブやりたいと思ったときは、二つ、三つの

複数のクラブ入っとしても構わないし、今みたいに一つの野球に入ったらもう3年間ずっとそれしかしないとかでもあかん、そういうのじゃなくて、水泳部とか、野球部でも、その複数のでもいいし、違うこととのいろんなことで、ほんでクラブの退部、入部はある程度フリーな形のようなクラブ活動いう、そういうニュアンスで考えたら、今後の中学校のクラブ活動いうのはどんなふうな形で認めていこうというか、それなりの形を課外教育としてクラブ活動へ持っていこうと、進めていこうかなという何かビジョンありますか。

#### ○都倉達殊市長

ビジョンといいますか、今回、この地域移行に関しましては、どこの市町もちょっと進み方がまちまちなんですけど、いわゆる学校の部活動を今まで見ていただいた先生方がなかなか大変だということで、大きくもう方向転換をしようとしてるわけですよ。そこにこどもたちが、どういう、今までサッカー部に入ってたこどもさんが、中体連とか、ほかの大会にも行くときに、今までのその流れの中で学校の教師の方が監督という立場で連れていったのが、地域の方々、また民間の方々にお願いをするというような形がとれた競技はすぐ行けるんですけど、なかなかやっていただける、地域移行に進まない競技がまだあるという状況の中で、どういう形が望ましいのかというのをこれから進めていこうと、教育委員会と一緒にやってるわけですけど、いずれにしても、今、山名委員がおっしゃったように、別にこだわることなく、いろんな学校、授業が終わった後にサークル的なことでも、囲碁でも何でも学びたい、やってみたいという希望があれば、それを誰が教えるかという、誰がというのが地域の方でおられれば入ってきていただいて、運営をしていただくとかいう形が早く取ればなというふうに思ってます。いずれにしても、こどもたちの教育という観点において、学校の授業とはほかに、そういうスポーツ、また文化的なことも含めて、何か学ぶ機会をつくるということが大事だし、学ぶ指導側に立つ人たちが学校の教師じゃなく、地域の方々に参画していただくということがスムーズに移行できればいいわけですけど、そこが、一番、大変難しいところになってます。

#### ○山名克典教育委員

ただ、結局、クラブの在り方としての基本理念としては、将来、中学校のクラブ活動いうのはすごく曖昧なクラブ活動でやっていいんで、曖昧と言ったら言葉悪いですけど、いわゆるスポーツクラブオンリーの中体連に入っていくような形のクラブ活動以外のものがいっぱいあるような形、それでそれが中学生生活の中でのクラブ活動であっていいんだという、そういうことを考えた基で、そういう将来的にそうあるべきだという考え方で、今、考えていってる地域移行に関しての各種運動クラブなりとか、そういうものの地域移行いう形は両輪で二つ一緒に進んでいかないと、クラブ活動、今の既存のクラブ活動の在り方しか頭になかったとしたら、ちょっと大変なんで、だから、そういうクラブ活動、地域移行ができないような形のクラブ活動、協力もできないというような形になってきたら、そのクラブはやはりもう各中学校単位では駄目だし、地域の3個、4個集まるような形で維持できるのを模索しながら、ある程度、こどもたちのニーズに応えるためには、それなりの、どういうか、どういうのができるかいうことを模索はしていく姿勢は示しながら、でも、ある程度は、しようがなかったらクラブチームでやっていただかなきゃならないとか、それと行く行くの中学校の中での、中学生生活の中におけるクラブ活動の在り方いうのは、どんなパターンがありなんだろうという、そういう本質の問題だったと思うんで、そこが難しくて、それをどんなふうと考えておかなあかんのかなと思とんですよ。

必ずしも僕がしようとしてるのが、絶対、どれをやリなさいというのはないと思うんで、だから今のクラブ活動の欠点というか、弊害は、いわゆる勝利至上主義的な形で、結果を求め過ぎたこともあってやるようなことがあったから、そういうのも、もういいんじゃないかという、各種地域の中では地域大会がいっぱいあり過ぎて、大会に次から次へ間髪入れずにスケジュールがいっぱいなぐらい、いろんな大会に出ていく、そういうある種のスポーツだったって、それ、そういうのもやっぱりこの中学校の教育の中で、クラブ活動としての在り方としては反省してもいいんじゃないかなという僕の考え方です。

○吉屋章教育委員

私もいいですか、ちょっと。

○都倉達殊市長

どうぞ。

○吉屋章教育委員

部活動、高砂市の、このこどもの教育っていう中で、部活動からこどもに学んでもらうっていう教育としての部活動って、どれぐらいの割合でいくのかなと思って。部活動、指導者が学校の先生であろうと、地域の方であろうと、どっちでもあれなんですけど、この部活、サッカーや、野球うまなるとちごて、体力の向上だけじゃなくて、いろんなことを部活で経験するじゃないですか、先輩、後輩との関係性とか、団体行動とか。そんなんも含めて高砂市としては、これからは地域に移行していくけども、完全に学校から切り離してしまうんじゃないくて、こどもの、高砂市の教育の中の一部として、やっぱり部活動での学びっていうのも入れていくのか、もう、ほんと、働き方改革という観点からも、全部地域で、学びたい子はそこに、それはもちろんクラブチームなり、いろんな活動したらいいけども、高砂市の中での部活動っていうのをどれぐらいこどもの教育に取り入れるか、否かいうとこなんですけど、どうですかね。僕は、もうやっぱりこれは教育の中の一つとして、そこで山名先生、言われたように、いろんなクラブをつくったらいいじゃないか、その中で文化的なこととか、高砂のことを学ぶクラブであったり、そういうボランティアの部活なんかもできたらいいと思うんやけど、そういう中で何かしらやっぱり市としての部活動も含めた教育なのか、もう切り離してしまうのか、どっちですか、市長。これ教育委員会で決めるんですか。大体、市長、思い。

○都倉達殊市長

市長ですけど、僕は考え方としては、切り離してしまったらよくないと思ってます。思ってますけど、できる競技と、なかなか難しい競技と出てくるのではないかなと。今の状況でも、やはり、委員の方もお聞きしてるかもしれませんが、少林寺であるとか、柔道、剣道、そういった道場を持ってるような競技については飛躍的に進んでますね。だから、そこを指導者の方が、やはり教育として捉えて指導していただく。それは、今、吉屋委員が言われたような、教育との中でのスポーツを通じての学び、そういったものが当然できていくんではないかなと。やはりチームワークであるとか、上下関係であるとか、競技のレベルだけではなく、いろんな学びがあると思うんですよね。そこはやはり大切にしていかなければいけないと思ってます。

ただ、教員の働き方改革の中で、今、変革をしようとしている中においては、全てが整うかどうかというのは、ちょっと微妙なところがありましてね。

○吉屋章教育委員

やっぱり、いやもう最後に、部活動は、高砂市においては、これは部活動も教育ですね、今後も、ねえ、教育長。エンターテインメントというか、娯楽とちごて教育ですね。方向性として。

○都倉達殊市長

教育の一環であるというのは、変わらないというふうに僕は思ってますけど。

○山名克典教育委員

だから、ごめんなさい、割って入って、ちょっとこれだけ言わせて。クラブ活動が教育の一環として捉えたときに、帰宅部をどう考えるかや。

○吉屋章教育委員

そうですね。

○山名克典教育委員

クラブ入ってない方、クラブ入って、それなりの上下関係、それはそれなりの効果があって、それなりの人格形成いろんなことに関してすごくメリットあると思います。デメリットもありますけど、それ以外に、高砂市、中学生全体が全部入っとうわけじゃない、帰宅部の子がおる。その子たちを抜きにして、それだけのクラブに属してる子たちだけのメリットは正しいと思うけど、語れないと思うねん。その子たちをどんなふうな形でいろんなことのところへ参加できるような形を誘導していけることがあって、今の既存のことに対する反発があって、違うことであつたら参加できるような形があるのかもしれないという希望も僕はあつての話を言ってるんでね。そういう門戸を広げて、入りやすさ、要するに、負担の少ないところでのいろんなやり方もあるといいんじゃないかということ。過重な負担をかけた今のクラブ活動の在り方いうのんの大きな弊害としては、やっぱりあるんで、そういうのは別としてね。

○都倉達殊市長

教育長。

○玉野有彦教育長

古屋委員はそれだけを言ってるんじゃないで、例えば、ボランティアクラブつくったらどうやとかいう気持ちを持つての意見だと思います。

○吉屋章教育委員

教育としてクラブを持っていくなやったら、やっぱり選択肢を広げといて、帰宅部は、その子はそれを選ぶ権利があるし、部活動、教育じゃないから、もうこれと、これしかないよ高砂、クラブチームと、もうこんだけじゃなくて、やっぱり教育の一環として考えるんやったら、市の教育委員会として、高砂市として、いろんなものを増やしてあげるとか、選択肢をやっぱり増やしてあげていかな。

○玉野有彦教育長

学校教育だけの部活動ではないよという考えは一緒かなと思います。

○神尾信作教育委員

もう部活動になるとなかなか、過去と未来と分けて考えないかんのかなと思いますね。

過去のとくに、確かに私も熱中していた一人なんですけども、ただ、勝利至上主義という言葉で包括されるということについては、随分、私はそうではないという思いもあって、ちょっと、ここはなかなか自分自身でもそう思っていないという部分があるので、それで全てをそこで包括されるのはちょっとつらいところがありますね。

ただ、今の現状で、これからのことを考えていくときに、確かに過重なこともたくさんあったんで、そこは、これから僕も反省して新しい目を持たないかん。これも確かなことなんですけども、ほんなら高砂市の現状を考えたときに、今日は、いろんなデータを見させていただいて、そうすると確かに今の市内の教職員の6割近くが、もう持ちたくないというふうなアンケート結果が出てました。それは薄々は聞いてたんですけど、そんなもんやねんと思いつつながら理解はしてるんですけども、ただ、職員の現状そういうことで、あと、地域移行になかなか行かないということについては、高砂ってすごく部活動に熱心な地域だったと思うんですね。今の保護者の皆さんは、それを本当に熱心に活動してた、自分が中学校の頃。そういう保護者がいっぱいいるから、だから、今の制限のかかった、そういう部活動に対する思い入れが、全然、自分のときと違うので、なかなか地域移行に乗り切れてないのかなという僕は感じます。

今、僕は思ってるのは、あまりにも決め付けてしまうと入りにくいから、もっとフアジーな感じ、ふわっとした感じで、できるところからやっていきましょうぐらいの感じでやっていくと、どんどん乗ってきていただけるかな。今日のアンケートの中にも、将来どういう形になるか分からないので、ちょっと指導するか、指導しないか手を上げられませんかという人が結構いらっちゃって、それもこういう形で、今、地域移行が進んでいるんだという実例が出てきたら、それに乗ってくれる人も市内の教職員たくさんいるんじゃないかなと思うので、早く形をつくってほしいんだけど、それはあまり決め付けた形じゃなくて、こんなんもいいよ、こんなんもいいよみたいな、先ほどの山名委員がおっしゃったような、本当に二つ、三つを、夏と冬では入れ替わるみたいなとか、土日で入れ替わるような、そういうシステムまでも含めてフラットな感じ、フアジーな感じの形で進めていけば、結構、乗ってきてくれてうまくいくんじゃないかなという感触ですけども、思ってます。

#### ○都倉達殊市長

ありがとうございます。

今の御意見で教育長、何かありますか。何もない。

#### ○玉野有彦教育長

今後地域クラブ活動をしますという方針を教育委員会でつくってまいりたいと思います。それをいつの時点でそれを打ち出すのかというのが、今、私の頭の中にある課題です。先ほど言われたように、地域の人に乗ってきてもらわんとできへんことなんで、それをどうお願いしようかっていう方法を考えて、スポーツ協会の方々、それから文化連盟の方々、企業の方々にも声をかけているところです。ちょっと今いろんな人に意見を聞いているところです。

#### ○都倉達殊市長

はい、ありがとうございます。

ほか何かありましたら、よろしいですか。この振興基本計画については、もうよろしいですかね。

様々な御意見、本当にありがとうございました。

予定時間もそろそろ参ってきておりますので、本日いただきました御意見を貴重な御

意見として、また、再度、庁内でも検討させていただきまして、教育大綱、また次期総合教育会議において、最終版である高砂市教育大綱のお示しもさせていただきたいというふうに考えております。今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げます。

それから、教育振興基本計画（案）につきましては、今後パブリックコメントとして、広く市民の方々に意見募集をしていくという考えでおります。そこでの意見も踏まえまして、策定検討委員会での承認後、大綱同様に、次回の総合教育会議に改めて最終版としてお示しをさせていただきます。皆様方の承認を得たいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

本日の議題につきましては以上となります。

何かその他について、何かございましたら、よろしいですか。

ないようですので、本日予定しておりました議事はこれで終了させていただきます。

それでは、進行を事務局のほうにお渡しいたします。お願いします。

#### ○事務局

本日の議題のほうは、これで全て終了となります。

次回の総合教育会議についてでございますが、来年の1月頃を予定しております。改めて調整を行った上で御連絡いたしますので、委員の皆様におかれましてはお忙しいところ恐縮ですが、御参加のほうをどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして令和6年度第3回高砂市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

#### ○都倉達殊市長

どうもありがとうございました。